

「フェアトレードを通じて世界とつながる」

----- 地域から考えて地球規模で行動する取組みについて -----

< 神奈川 > フェアトレード NGO **ネバリ・バザーロ** 土屋完二

< はじめに >

交通、通信の発達とともに、地球は狭くなり、多くの市民が海外にでることも多くなりました。そして、共感、共生といわれるように、豊かな社会作りと地球市民としての行動が求められています。

その有効な方法の一つとして、フェアトレードの活動を紹介し、地域でどのように取組み、その結果がどのように地球規模の行動に繋がっていくのか、その一部をご紹介します、共に考えていきたいと思えます。

< 発表概要 >

「フェアトレード」とは、公正貿易とか、もうひとつの貿易とも呼ばれ、欧米では約30年の歴史を持っています。その目的とするところは、世界に広がる貧困の改善です。貿易を通じて仕事を作り、仕事を通じて生活を向上させる、生産者の個人を尊重した活動です。一方的援助と違い、この貿易の輪に関わる人々は、皆、共存共栄している対等な関係者です。しわよせの生じやすい力のない小さな生産者に配慮しながらすすめられる貿易でもあり、ビジネスという形の継続性を持った社会貢献活動です。

「ネバリ・バザーロ」は、フェアトレード団体の一つで、オランダで法人登録された国際NGOであるIFAT(International Federation for Alternative Trade)の正式メンバーです。IFATは、ILO(国際労働機関)の正式なオブザーバー資格を持った、世界48ヶ国の生産者と輸入を行う143団体が加盟する組織で、事務局はイギリスにあります。このようなネットワークを通じて意見交換や支援をもらいながら、自分たちの活動を深めています。私達の活動の主な対象国はネパールです。40を超える生産者団体と関係を持ち、紙、紅茶、コーヒー、自然素材では、ネパールの各地の村と取引があり、技術支援や設備化、女性グループのネットワーク作り、収入向上に向けた施策、コミュニティ研究などをしながら慎重に取組んでいます。

「**現地の活動**」は多様で、一つの小さな団体が、特段の援助もなく貿易というビジネスを通じて一般の企業と競争し、更に社会貢献するのはとても大変なことです。それでも、その存在が可能であるのは、市民の方々から受ける支援やボランティアの活動による応援があるからだと思えます。様々な技術や意識を持った方々が関わっています。

比較的豊かな地域は、一般に教育の程度も高いのですが、その中のある地域は、何故か学力が低いということがあります。そこで、ある教育の研究者がその地域に住み、生活を共にしながら調査をしました。その原因は様々あり、教育面だけからでは改善ができません。一般には、一家の生計と大変関係が深い場合が多いようです。そこで、フェアトレードの面からも検討することになります。

「**私達の住んでいる地域**」では、現地の対象地域研究の論文や周辺の資料を集め、関心あるボランティアの方で分科会をつくり検討します。必要であれば、現地で話し合いをすることにしています。このようにして、私達の専門性や関心の程度に基づいて皆で話し合い、その効果が海を越えた地球上の他の地域で生かされる可能性があります。一人一人が、概念だけでなく実際の問題として把握し考えて行動できる場が、フェアトレードという活動を通じて、私達の住んでいる地域でも可能になろうとしています。

< 話し合いたいこと >

都心ならいざ知らず、横浜のはずれという地域性では、関わりたいというボランティアさんが多いとは言えません。せっかくの「地域からのかかわり」を活かすには、どうしたら良いのでしょうか。現地で、フェアトレードと教育の連携が必要なように、地域でもそのような連携の必要性を感じています。

< 今後の課題 >

10年近い活動を通じて、ようやく「地域から考えて地球規模で行動する」という、地域から現地を線で結ぶ出発点に立てた感じです。その成果はこれからです。このような学際的な活動を盛上げて、活気ある地域社会、地球市民社会に1歩でも近づけられたらと願わずにはいられません。

フェアトレードって？

フェアトレードは、1940年代に「オルタナティブ・トレード(もう一つの形の貿易)」として、アメリカでN G O(非政府組織)活動の中から始まりました。現地の人々の雇用につながり、経済的な自立と貧困問題の改善を目指す貿易です。

日本でも90年代に入って、フェアトレード団体が次々と誕生しています。なぜ今フェアトレードなの？フェアトレードって、具体的にどんなことをしているの？などなど、私たちネパリ・バザー口のフェアトレードへの取り組みの中から、「フェアトレードってなあに？」の答えを探してみてください。

--->フェアトレードの歴史：P 3 参照

現地の活動

◆子ども達はなぜ学校へ行けないのか

ネパリ・バザー口の母体であるN G O、ベルダレルネーヨ(ネパールの女性の自立と子どもの育成支援の会)は設立当初、ネパールの学校へ行けない子どもたちの為に、学校を建設することを目指していました。しかし、何回か現地を訪問して学校建設のための土地を探したりしているうちに、問題は別のところにあると感じるようになりました。学校自体は、各国の政府やN G Oの支援でかなり作られるようになってきているのに、就学できない子どもは依然たくさんいる上、入学しても通わない子供や、1、2年でやめてしまう子どもも多いのです。親が子どもを学校へやらずに家事や農業などの労働に従事させる、学校を出たところで働き口はなく、子どもに学ばせる意義を見出せないなど、教育問題の背景に突き当たりました。つまり、親の経済力と関係しているのです。都市部から遠く離れた農村部では市場が遠く、生産活動をしてそれを売るマーケットがないため、現金収入にならないという問題もあり、食べていだけで精一杯の家庭がほとんどです。子どもたちの環境の厳しさは、教育問題だけに力を入れても改善されない、ということが見えてきたのです。



村で生産したコーヒー豆を都市部まで運ぶ

◆「援助」より「貿易」を

経済問題が見えてはきたものの、各国からの支援活動が盛んなネパールでは、それまでも数々のお金やものの援助がなされていながら、根本的解決にはなっていないということも確かでした。いつ支援がとまるかも知れず、打ち切られればまたもとの状態に戻ってしまうのです。また、常に貰う側には依存心が強くなり、自分で家族の為に道を切り開き、支えていくという自立の精神をも壊しかねません。与える援助は、人間としての尊厳を傷つけてしまうのです。

そんな中で言われた、あるネパール人女性の「恵んでくれなくていい、トレードをしてほしい。自ら力をつけて立たなければ、この国は変わらない」という言葉。その言葉に触発され、ネパールに仕事の間を作り出し、経済的な自立を促すことを目指して、フェアトレード団体、ネパリ・バザー口は設立されました。



村で無農薬コーヒーを栽培している若夫婦



クッションカバーを製作する女性

◆そしてフェアトレード

貿易の手続きさえ知らずに始めたフェアトレードでしたが、就職が困難な女性達に技術指導し、伝統を維持しながら製品作りをしている工房や、優れた技術を持ちながら仕事のない職人たちから、前金を払って製品を輸入し、自主企画イベントや国際協力イベントで販売する一方、インポートショップに卸をして販路を拡大してきました。

ネパリ・バザー口が扱っているのは、ほとんどがネパールの製品です。それは、ネパールに限定することにより、生産者と距離を近く保つことができるからです。また、私たち自身のサイズを意識して、私たちが「小さな生産者」と呼んでいる、バランスの取れる同程度のサイズの団体や、個人の生産者と付き合うように心掛けています。それはお互いに、その主旨や効果を考えながら十分に話し合っ進めていくためです。

小さな団体や個人の生産者はシステムが確立していない分、手間もかかります。現地へ行く以外には、電話もF A Xも通じない場合も多く、新しい製品の企画、開発はもちろん、注文さえも現地へ直接行って交渉しなければならない場合もあります。それでも、そうして直接生産者とコミュニケーションをとることによって、お互いに信頼関係が生まれ、製品の質も確実に向上しています。

また、トレードするにあたって、製作・栽培されたものを適正な価格で買い取ること、製品の注文は無理のない持続可能な数量であること、生産者の生活環境、文化を壊さないこと、なども常に念頭にしています。

フェアトレードの歴史

フェアトレードの動きの軌跡を辿るのは難しいのですが、1940年代にアメリカでオールタナティブ・トレード（もう一つの形の貿易）組織として、NGO活動の中から始まったとも言われています。また、1960年代をフェアトレードの始まりの起源とする立場もあります。

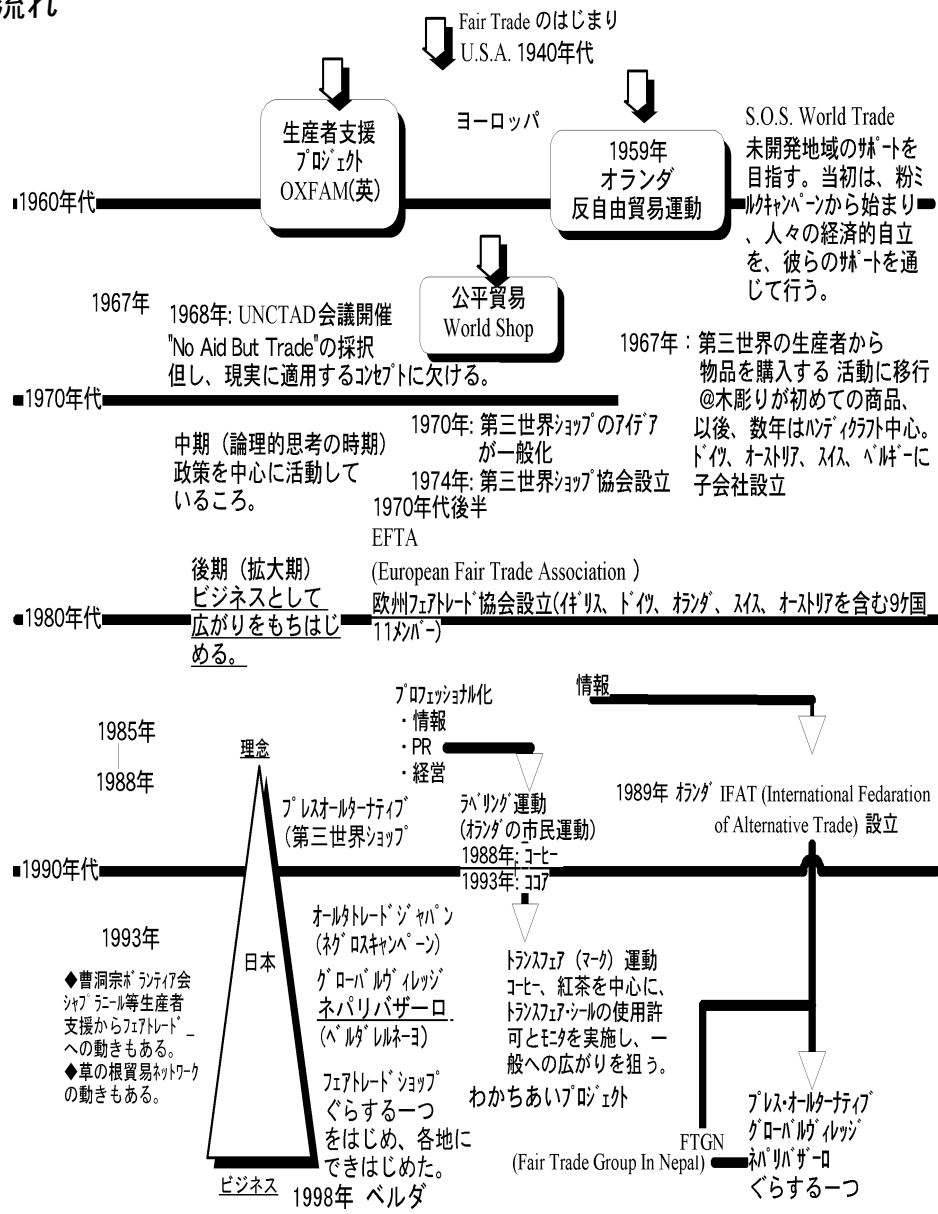
1967年までは「はじまりの時代」で、開発援助活動が中心のころです。第三世界から物品を購入し、販売する活動が既に行われていましたが、自立には経済的問題の解決が重要と認識するのはその後半です。

1974年から1985年は、生産者の状況や情報を付加し、消費者の理解を広げた時代です。ここから、社会の構造的変革の基礎、動きがでてきました。環境、女性、貿易のネットワーク化、第三世界の自らの改善の動きなどです。理念を尊重し、実践しようとした時代です。

1970年から1980年代前半は、ビジネスとして広がりを持ち始める時代に入りますが、同時に、理念を守る貿易の難しさに直面した時代でもあります。それは、理念を守るが故に財政破綻を来したことです。例えば、1984年には、ABAL FAIR TRADEが10年間の活動の後に破綻。1991年には、S.I.I.が15年の活動の後に破綻しています。

これらの経験を経て、生産者を含め、資本を規模に合わせて充実する必要性が認識されました。それ以後、必要とされる分野の専門性を深めるプロフェッショナル化への動きとなって変化して行きました。一般市場へ広げるには、ラベル表示が消費者の認知度を高めやすいので、ラベル表示の標準化を与える運動にもなりました(FLO)。輸入団体が共通の課題を話し合い改善して行く運動(EFTA)や、消費者に最も近いところにいるお店同士がよりフェアトレードに貢献するための組織化(NEWS!)にもなりました。唯一、生産者と購入者がお互いの課題と改善に向けて話し合える国際的な組織、IFATも設立され、フェアトレードは、一つの人間の豊かさを計る物差しとして、市民の中に根付こうとしています。

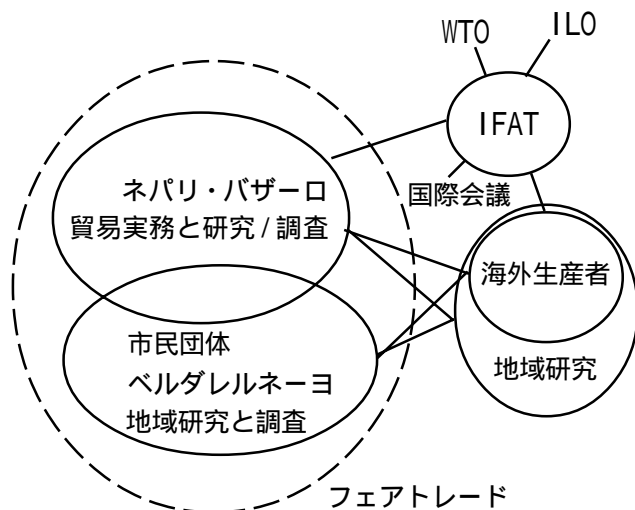
フェアトレードの流れ



ネバリ・バザー口って？

ネパールを中心としたアジア諸国の、ハンディクラフト製品や食品の企画・開発を行い、継続的に輸入を続けることによって、現地での就業の場の拡大を目指すフェアトレード団体で、1992年から活動をしています。立場の弱い人々、女性、子どもの自立を支援し、貧困の課題改善に取り組んでいます。**市民団体、ベルダレルネーヨ**（ネパールの女性の自立と子どもの育成支援の会）の活動から生まれました。

どのように活動しているの？



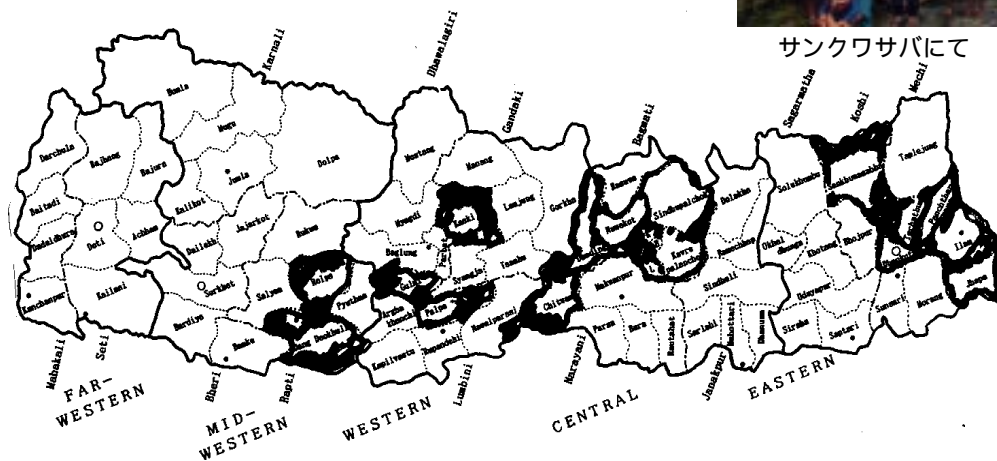
社会貢献の部分をボランティア性で補いながら、常に市民の方々に開かれた形で、企画開発、輸入、卸、販売、調査、収入向上、社会開発などの活動を行っています。

活動地域は？

主に、ネパールを中心に、インドのカシミール地方が含まれています。



サンクワサバにて



ダンにて



ジャナカプールにて

どのような商品を扱っているの？

1：ハンディクラフト全般

女性がかかわりやすく、小規模な生産者に貢献できるハンディクラフトに力を入れて、女性の地位向上に役立っています。

例1) ミティラアート

ジャナカプール地域の伝統を生かした商品開発にも力を入れています。

例2) アロー素材

遠隔の地域に貢献しています。自然素材でもあるので、その素材の育成サイクルには、常に気を配っています。

2：食品

広域な遠隔の村々への貢献(収入向上)そして、女性起業家を応援し、その開発と促進をしています。

例1) コーヒー

世界の中で公式に輸入しているのは、ネパリ・バザー口だけです。小さな農民への協力として販売しています。

例2) 紅茶

フェアトレードでオーガニックによる紅茶です。この収益で地域の改善に役立っています。

例3) カレースライス

品質の良い素材で作りました。また、同じに女性起業化の応援をしています。

どのような研究と活動ですか？

1：生産者訪問

顔の見える商品作りは、フェアトレードの根幹です。生産者の状況を理解するために、定期的に訪問をして、共に企画開発から取り組んでいます。

2：文化的背景の研究

伝統的商品作りにと密接に関係ある文化的背景を調べたり、必要により訪問して、情報を集めています。

3：染色、織り

歴史的背景、伝統的織りを生かしながら需要のある商品作りなど、日々研究しています。

4：村の換金作物作り

広域、遠隔の貢献には、どうしても農産物の換金作物が重要です。その為に、村人のみならず、政府への働きかけ、商工会議所との協力など、広いネットワーク作りと協力を得ながら活動しています。

例) コーヒーなど

5：村研究(収入向上)

立場の弱い女性の地位を少しでも改善するために、そのグループ化の促進協力と、広域に扱える商品の企画実験をしながら、フェアトレードを通じた貢献の道を探っています。

6：地域研究

地域のコミュニティーを壊さないように、人々の生活やその問題点などを広く研究しています。ボランティアの方々も積極的にかかわって活動しています。

例) 絵本の製作、物語本の製作研究

立場の弱い少数民族の研究をしながら、その伝統的なお話を集めて出版する企画。絵本を通して、その人々の民族の誇りを大切にして欲しいという願いと、教育の面からでは改善できない問題を、フェアトレードで収入向上に繋がれるかを、その地域研究を通じて考えています。

参考文献(基本)

「フェアトレードの本全国版」

ネパリ・バザー口発行

(045-891-9939)

<http://www.yk.rim.or.jp/~ngo/>



アローの村の子どもたち



絵本製作ミーティングの様子

1 : IFAT とは？

IFAT: International Federation for Alternative Trade = 国際オルタナティブ・トレード (フェアトレード) 組織連盟の略称

International Federation for Alternative Trade(IFAT) は、途上国における社会・経済的弱者(立場の弱い人々)の労働環境と暮らしの改善を目標に、支援という志を共有する世界中の組織の集合体で、それぞれの組織が従来の不平等な貿易の構造や慣行に代わる公正な交易を実践する組織が連携しあうことによって、更に活動を強化、推進していこうとする連合体です。IFATの会員は、団結し、相互に協力して、より公正な、従来とは異なった事業のあり方を創造し、また、IFATは会員組織が夫々に公正な交易(フェアトレード)を推進し、生産者に対する利益増大を図るのに役立つ情報や意見を交換する場にもなっています。48ヶ国、145団体から構成されています。また、ILO(国際労働機関)の正式なオブザーバ資格が認定されていますし、WTO(世界貿易機構)にも定期的に代表を送り、メンバーの意思を反映できるよう努力しています。



1999年5月ミラノで開かれた国際会議

ネパリ・バザールは、IFATのメンバーとして登録され、活動しています。

2 : IFAT 規約(IFAT Code of Practice)

IFAT: International Federation for Alternative Trade = 国際オルタナティブ・トレード (フェアトレード) 組織連盟の略称

International Federation for Alternative Trade(IFAT)は、途上国における社会・経済的弱者(立場の弱い人々)の労働環境と暮らしの改善を目標に、支援という志を共有する世界中の組織の集合体で、それぞれの組織が従来の不平等な貿易の構造や慣行に代わる公正な交易を実践する組織が連携しあうことによって、更に活動を強化、推進していこうとする連合体である。IFATの会員は、団結し、相互に協力して、より公正な、従来とは異なった事業のあり方を創造する。また、IFATは会員組織が夫々に公正な交易(フェアトレード)を推進し、生産者に対する利益増大を図るのに役立つ情報や意見を交換する場でもある。

IFATの会員は、以下の事柄を遵守する。

1: フェアトレード取組みの基本指針

途上国の最貧層にある生産者が、社会、経済、環境面において望ましい暮らしをおくれるように充分配慮した取引を行う。すなわち、公平な取引条件のもとで、公正な報酬や代価を保證することを意味する。貿易の構造、仕組み、実際の取引のあり方や態度について、不公平がないかを確認し、不公正な取引をなくしてゆく。強調し合うことによって、競争はしない。生産者の犠牲の上に立つ利益の追求ではなく、生産者に利益をもたらすために、フェアトレードと社会正義を促すことを考える。

2: 透明性

会計の状況、経営方針、実際の商取引、製品の原料とその入手ルート、製造方法、販促、商品開発や企画運営全般についてなど、あらゆる情報を交換し、経験を分かち合う。それによって、会員組織だけでなく一般の人々も、IFATと個々の会員組織の社会的、経済的な影響力や活動の波及効果を評価することが可能になる。この「公開性」は知的権利や政治的立場に関わる事項に関し互いに尊重し合う必要がある。

3: 倫理性

雇用の平等、情報公開、革新的な労働条件など、組織の仕組み自体に「公正さ」を徹底する。夫々の組織に合った方法で、労働者が意思決定や運営管理に関与できるように促しつつ、最低限のコストで可能な限り生産性の高い経営を行う。労働者に対し、生活のための最低限のニーズとして、医療ケア、教育費、貯蓄など十分な収入を保證できるよう目指す。

4: 労働条件

最低でも現地の法定基準を全て満たす、安全な労働環境を保證する。労働者一人一人が成長し、潜在能力を活かし、伸ばせる機会提供する。また、品質と作業効率を高めるために、適切な技術や機材を導入し、人間としての尊厳が守られる労働条件を保證する。

5: 雇用機会の平等

差別をなくし、労働の搾取や貧困、人種、民族、文化、性的な偏見などに苦しむ人々に対して、男性、女性に関わらず平等な雇用の機会を提供する。

6：人々への配慮

人間とそれを取巻く自然生態系への影響に責任を持ち、持続可能で人々が生活の質を高めることのできる、真の「開発」を促す。児童の労働を搾取してはならない。事業活動が、先住民の存続に必要な生活手段となる、土地をはじめとするいかなる資源をも奪い取るようなことがあってはならない。

7：環境への配慮

環境にできるだけ負荷の少ない商品の開発、取引を推進する。また、現地の環境生態系にそって、原料、素材、その他あらゆる資源が枯渇することのないように、維持管理を行う。

8：文化的背景の尊重

生産者の文化的背景や伝統、また、土地にあった豊富な自然素材を活かした商品の開発及び生産に心がける。文化の保存、継承を促す一助として、生産者の芸術的才能や独創性、部族に伝わる伝統的な技術や知識を活かす。

9：教育と啓蒙

フェアトレードの普及を目指して、一般の人々が環境への配慮と社会問題に対する関心を高め、消費のあり方を見直すように働きかける。途上国の貧しい人々の暮らしの向上のために、国際レベル、或は国レベルの政策に対し、キャンペーンを自主的、或は協力して行う。フェアトレードは、従来の不平等な仕組みや考え方を変えて行く有効な手法であることを、一般の人々及び一般企業に広く認識されるように働きかける。「南」の国々の文化と伝統のもつ価値への関心を高めることで、異文化に対する理解や敬意が深まることを図る。

・ 協力関係のあり方

フェアトレードに参加する組織は、仲間の組織のイメージや評価を損なうことのないように努力し、互いに尊重し信頼と連携の基盤を築いて行くことが重要である。この関係は、双方の利益と公平な取引に基づくもので、交易のみに止まらず、更に相互の発展を助け合う、良きパートナーシップとなるべきである。尚、IFAT 会員と準会員は、公開の直接的な対話によって異議を調整することに同意している。

1：フェアトレード組織と消費者の関係

フェアトレード組織は、消費者に、品質の高い公正な価格の商品と情報を提供する。また、フェアトレード組織は、消費者への十分な配慮(消費者との信頼関係を築き、販促に際しては常に事実を伝える努力を行い正しい情報を提供すること)を、倫理的な立場のみでなく、この取引に関わる全ての人々にとっても有益になるように努めて行く。更に、消費者からの意見や要望に耳を傾け、商品の開発と販促に必要な情報を積極的に取り込んで行く。

2：フェアトレード組織間関係

生産者の代表として、フェアトレード組織は、生産者の利益となるようにマーケティングの役割を担う。最小限のコストで最大限の販促効果をあげられるように共同して活動するなど、連携する必要がある。また、共同事業の実施に際しては、効率良く運営を進めるために、夫々のもつ地理的条件、資材などの違いや特徴を考慮し、相互の役割分担を明確にしておく必要がある。フェアトレード組織は、商品や市場、及び販売方法に関して、情報交換したり、仕入、販売を共同で行うなど互いに協力する。これにより、マーケティング、及び他の活動の重複による無駄を省き、一方、市場を独占するような協定を結ばない。また、組織の運営資金と、生産者への信用貸しや小規模融資の資金、運転資金の確保などに役立つ募金や援助資金の調達も、組織間の連携の目的である。

3：フェアトレード組織と生産者組織の関係

フェアトレード組織の役割は仕入と販売であり、生産者の役割は生産と販売である。この両者による商取引の関係は、公正な交易の実現に向けた、様々な活動によって支えられる。市場の動向や商品の評価に関する情報、財政面での支援など、会員と準会員の持てる能力に応じた、適切なサポートが受けられる。フェアトレード組織と生産者組織は、生産者の持つ技術と素材を考慮に入れながら、より価値のある、質の良い、幅広い商品を提供できるように企画、開発を行う。生産者組織とフェアトレード組織は、互いに責任を持ってそれぞれの役割を果し、積極的な姿勢で共同事業に望むことに同意する。

4：生産者組織間関係

生産者組織同志は、率直かつオープンな関係で、それぞれの生産者メンバーの利益を尊重して協力すべきである。競合は避け、使用許可を得ずに原型やデザインを複製するなどの行為をしてはならない。情報を交換し合い、合同の技術研修や、強調し合える分野でともに活動し、可能であれば会合をもって共通の問題や課題について意見交換や助言を行う。

注) IFATの会員は、「南」と「北」のフェアトレード組織と生産者組織が含まれる。IFAT準会員は、IFATの活動目的に賛同するものであるが、実際の取引には携わっていない。



IFATの年次レポート



イタリアのフェアトレードのお店
左端の女性はボランティアで学生

現地の活動はどんな？

コーヒーの支援活動の始まり

1998年6月通信17号から

生産者を訪ねて その6

共同組合組織のコーヒー村 グルミ

小規模農家の村人たち

土屋完二

新しい出会いを求めて

マーケットが見つけれず困っている農民の方々との出会いから始まったコーヒーの輸入であったが、そのころから数年が経った。まだまだ私達の力も弱く、前途多難である。それでも、そのやる気を支えてくれるものは、農民の方々やそのご家族、そして、それを支えて頑張っている方々との出会いである。今回は、ネパールでは比較的新しい形である組合組織を通じて、小規模な村のコーヒーの状況を知るために、グルミの村を訪ねた。



パラカカ・パザルにお住まいのビムさんとコーヒーの苗木

共同組織の繋がり

National Cooperative Federation
Center Cooperative Federation
Districts Cooperative Federation
Primary Cooperative Federation
(Gulmi, Pulpa, Japa)

夜行バスの旅

目的地は、かなり山の奥にある。首都カトマンズからは、西の方向で、距離は観光で有名なボカラよりやや遠いブットワールまでまず行かなければならない。車をチャータするには、私の貧乏な旅では支払いに堪えなく、地

元の方々が利用する夜行バスに乗ることにした。バスの切符はネパール語、数字もネパール文字。席は予約制なのだが、自分がどこに坐って良いかさっぱりわからない。窓は閉まらないし、座席の間隔も狭く窮屈で寒い。バスの中は、英語は聞こえない。何をしゃべっているのか、断片的にしか理解できない。途中のバス停から若い男性が乗ってきたかと思ったら、車掌とどなり始めた。後部座席からヤジが飛ぶ。どうもお金がないようで、払わなければ降りると言っているらしい。そこを何とか乗せて欲しいと交渉しているようだ。

このようにして、夕方、カトマンズのニューロードを出発したバスは、翌朝5時に目的地に到着。外はまだ真っ暗であった。まずは、知り合いの家で休養をとらせてもらい、地元案内の青年が来るのを待つことになった。

バスを諦めてランドクルーザーで

朝、日が昇るとすこぶる暑い。そうだ、ここはネパールでも南の端である。人々の顔つきも、ラマ族やチベット系の人々、またはネワールの人々のように、どちらかといえば日本人に近い顔立ちが目立ったカトマンズとは違い、インドを思わすアーリヤ系の顔立ちが多い。服装からもインドの影響を感じる。短期滞在の私にとっては、あまりのんびりしているわけにはいかない。村案内の青年が来たところで、これからの計画を打ち合わせる。

今回は、極力ローカルの交通機関を使いながら、とにかく歩くのを基本に計画したが、その計画はすぐさま変更を余儀なくされた。主要道路でバスを待つのだが、なかなか止ってくれない。これでは、時間がとにかく無駄である。なんとかバスを捕まえて、近くの大きな町、ブットワールまで出て、そこでランドクルーザーを探すことにした。道がハードで、普通の車では走れないからだ。時間は、既に昼近くなってしまった。とほほ。夕方出発できればラッキーなほうかもしれないという状況になって来た。実際には、大変幸運にも1時間後



に車をチャーターでき、出発することができたのだが。ポカラ方面に2時間ぐらい走り、タンセンの町で山側に入る。ここから数時間、更にガタガタ道を走り続ける。

日も暗くなって来たころグルミの村へ到着。あまりの揺れに、胃の調子が悪い。腹の調子も夜行バスのせいか調子が悪くなってしまった。

バザールのホテルで、お互いの夢を語り合う

村では、数人の若者が待っていてくれた。村の共同組織に所属している人達である。日も暮れて真っ暗になった夜道を、彼らの家を訪ね、挨拶を済ました。何故か子どもがまだ5ヶ月から8ヶ月の新婚の方が多かった。

家に着くと、赤ちゃんをチュウチュウとなめる。可愛くて仕方がないのだ。

食べ物は大変に質素である。それでも、泊まれと誘われたが、トイレに弱い私は遠慮してしまった。明日は朝早く出発しなければならないので、一路、近くのバザールへ行き、ホテルに泊まる。二人が泊まれる部屋があり、二人で食事もして800円。おー安い！山の高いところなので、2月末にしては、大変寒い。具合が悪くて寝ていると、皆が心配して、食事とアルコール(ロキシ)を持って訪ねて来てくれた。この夜道を車で10分は走った遠いところからも来てくれたのには驚いた。

同じ部屋に泊まった案内の青年は、更に山の中へ行かねばならないところから来ている。彼は、村で暮らしたいという。だから、生活が成り立つのが彼の願いだそう。なかなか英語では通じない。村の方は、あまり英語ができない。

そこで、ネパール語をミックスする。いや、ネパール語に英語をミックスするという感じ。昨年の9月からネパリ・バザールのスタッフから習い始めたネパール語が大変に役立つ。ロキシを飲みながら、お互いの夢を語りあう。

ダウラギリとアンナプルナの山脈を背景に翌朝、村の案内役として農協のサブオフィスからビムさんが来てくれた。彼は、村の高校を卒業。そこで習った英語と、その後に独学で勉強した英語で私に話しかけてくる。読み書きや、長いフレーズで話すことはできないが、簡単な言い回しだと十分にお話ができる。大変な勉強家だ。

お茶を飲んで、車に乗りひとつ先のバザールまで行く。そこは、学校がすぐ前にある小さな街であったが、8,000m級の山々、雪化粧のダウラギリ、アンナプルナが良く見えて壮観である。昨夜、ホテルを訪ねてくれた青年がここに住んでいた。学校の先生をしているという連れ合いと、5ヶ月になるあかちゃんとの3人暮らし。バザールの角の小さな土間の一部屋に、質素なベッドがあり、簡単な料理をする器具が少し。それでも、私にベッドへ座るように薦めてくれ、村で飲むという自分達で作った村のコーヒーを出してくれた。

ここで休息した後、少し先まで行き、あとは歩いて山を下る。そこが、目的のコーヒーブレスである。

コーヒーとフェアトレード

以後、さまざまな出会いや、プランテーションでの新発見などがあった。その中でも、力を入れようとしているものは、換金作物である。コーヒーは、その中でも有力な作物。でも、なかなか安定したマーケットを見つけれられない。特に、今年は、お隣のインドのコーヒー生産量が豊富なので、なおさらである。このような状況下で、一部の流通会社が市場の大半を握るコーヒー市場において、特に小規模生産者に対する私たちの取り組みは、力関係が対等故に歓迎されている。この持続可能な取引から、中長期的な村の開発を可能にし、生活向上につながって欲しいと願わずにはいられなかった。そして、ヒマラヤンワールドの香りを通じて、皆様に少しでもこの出会いをお伝えできたらと願いつつ。



海外の動き

「繁栄と持続」：フェアトレード

「繁栄と持続」と題して、フェアトレードの役割と期待に関する記事がネパールの新聞、THE RISING NEPAL(1999年10月15日)に掲載されました。

多くの援助がなされているにもかかわらず、なかなか生活は向上しない。特に、小生産者、小さな農民には行き届かない中、そのような点に着目しながら活動しているフェアトレードに焦点があたりました。

現地で、ハンディクラフトを中心に、遠隔地も含めて活動しているFTGN(Fair Trade Group in Nepal)、そして、ネパールで唯一NASSAAというオーストラリアのオーガニック証明機関から認定を受け、FLO(Fair Trade Label Organization)の認定も受けて生産しているKTE(Kanchanja Tea Estate)、そして、日本のネバリ・バザールが紹介されました。

[参考]

FTGN: サナ・ハスタカラ、マハグティ、KTS、マヌシ、ACP など、ネバリ・バザールとも多くの取引があります。

KTE: オーガニック紅茶、日本ではネバリ・バザールだけが販売代理権を持っています。

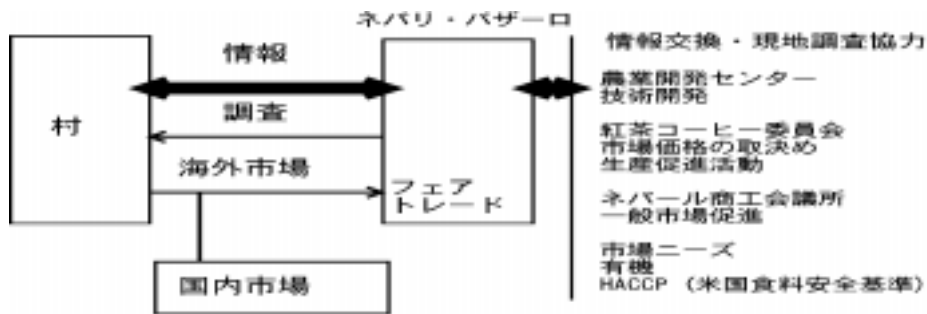
Although the concept of Fair Trade took its shape only in the mid sixties, nearly a million small farmers artisan and craft man are able to sell their product through this channel today.

In Nepal the concept of Fair Trade has been introduced only recently. Fair Trade Nepal was registered in 1997 with the efforts of some handicraft producer groups. The Fair Trade group has generated employment to accommodate 5,000 women who have exported handicraft worth around 50 million rupees. The volume of business is increasing by 50 per cent every year.

Kanchanja Tea Estate developed by a small farmers community in a remote village in Panchthar District is producing organic tea which is registered under the Fair Trade Labeling Organization International. It exports 100 per cent of its products to Europe and Japan. The market price of coffee has boomed since a fair trading organization, Nepali Bazar, of Japan started buying coffee from a Gulmi District Co-operative directly. The entry of Nepali Bazar forced the other coffee exporters to pay a higher price.

Foreign aid in our context, instead of helping the process of development, is only creating a new class of people whose affluence is unrelated to the general economic condition of the nation. If Nepal can plead for trade instead of aid many small farmers would be encouraged to grow more exportable crops such as coffee, tea, spices, ginger, cardamom, etc. For example Indian traders buy cardamom at much cheaper price paying Daulmi (a funding to farmers' loss crisis period). Such injustice can be avoided if fair trade is promoted in Nepal.

ネパールのコーヒー / 紅茶を取り巻く状況：



行ってみようあのお店 フェアトレードの本全国版 P.109 より



ジープで水溢れる道を奥地、モジウへと向かう。途中から徒歩。テソマークから森林保護部隊も来て作業をしていた。蚊が多く、刺される。



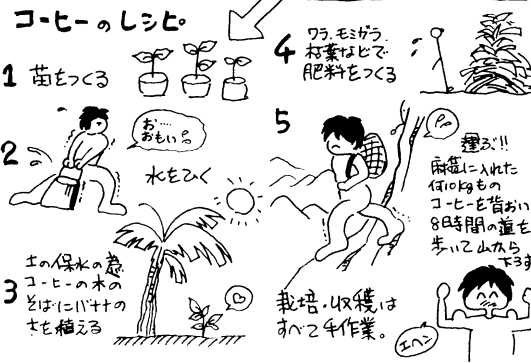
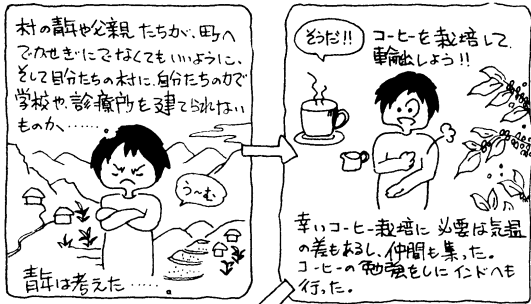
村人(農夫、及びタムガス農業開発センター・サフ・オフィスのオフィサー)と、NASAA(オーストラリア)の有機栽培試験官を交えての話し合い(ハラクサルにて)。

行ってみようあのお店 フェアトレードの本全国版 P.110 より

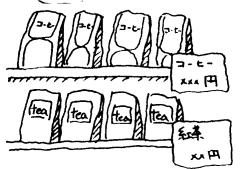
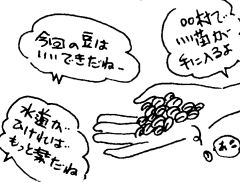
フェアトレードの商品ができるまで

このコーナーでは実際にフェアトレードの商品がどのように作られ、日本まで入ってくるかをわかりやすい漫画にまとめてみました。

— おる無農薬、有機栽培のコーヒーが、皆様の手に届くまで —



収穫した豆は、フェアトレードしている人に買ってもらって、いよいよ情報交換もする。

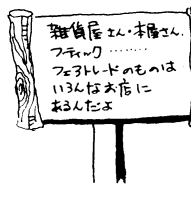
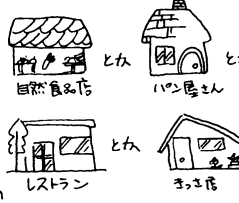


お店でフェアトレードのコーヒーや気味(ほかにも雑貨、洋服など)を見つけたら、ぜひ試してみたい。そしてお気に入りの味を見つけたら、あなたの定番にしてほしい。あなたもこれを毎日飲んでくれる。それだけで、私たちは、援助に頼らず、自分たちで、自分たちの生活をつくりだしているのです。さあ、いよいよお店です。さあ、あなたと出会うのを待っています。

そして日本へ運ばれ、栽培されます。



そして日本のお店に並ぶのです。



住んでいる地域では?

現地の立場が弱い人々、社会に貢献していくには、まず、現地のコミュニティーを研究し、その存在を尊重して壊さないことが重要です。これは、現地での情報收拾も大切ですが、現地にいればできるというものでもありません。様々な専門化や人々の意見を参考にしておくことも重要です。

そこで、月1回の学習会を開いたり、特に、その地域に残るお話を本に纏めるとか、生活の暮らし、教育の事情を調べるには、分科会を設け、それぞれに興味があるものに参加しています。

この研究を通して、現地でも話し合いを行い、従来、教育支援だけでは生活向上に繋がらなかった限界を、フェアトレードを通じて改善することを目指しています。

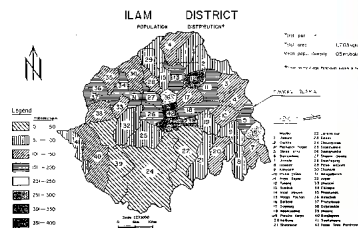
欧米の活動を見てみると、現地で成功しているケースは、そのような研究と実践に10年から15年かけてフェアトレードに繋がっています。その結果、現金収入増による生活の向上と女性の家庭における地位の向上にも繋がっています。

私達の地域でこのような市民レベルの活動を持つことが、結果として、遠く離れた地域の社会貢献につながっていく大変大切な動きです。

現地で教育とフェアトレードが繋がりが社会貢献に繋がる切っ掛けができたように、私達の地域でも、フェアトレードと教育の連携、市民との連携が求められています。



学習会の様子



論文資料

Problems, That the Parents Were Facing to Send Their Children to School

S.N.	Problems	Number of Responses	Number in Percentage
1.	Lack of stationers and proper dress	27	60.00%
2.	No problem	10	22.22%
3.	Children do not like to go	5	11.11%
4.	Other	3	6.66%

A parent's main problem in sending their children to school was lack of money to spend on stationers, text books, school uniform etc, like school related expenses. So 27% parents